

人格の偉大性に関する心理学的研究

— (その3) 特に、中高年者における偉大性要因の分析 —

藤 田 主 一

I. はじめに

本研究は、人格研究の中でも特に人格の『偉大性 (greatness)』を構成している要因や背景を明らかにすることが目標である。人の個性 (individuality) に関係する心理学的な概念の中で、人の性質を表すものには、気質 (temperament), 性格 (character), 人格 (personality) などがあり、それらには独自の基準と領域が存在する。その中で『人格』は個人の背後にある一貫した行動様式を総合的に示したもので、人が日常生活の中で他者の個性を認知し、また他者との人間関係を円滑に遂行していく上で欠かすことのできない概念である。また『偉大性』は、通常「偉い人」や「立派な人」などといわれる個人を指すものであるが、必ずしも明確な定義が存在するわけではない。今日まで、主として欧米の研究者たちが「偉大な人 (偉人)」として取り上げられた人びとについて独創的な研究を進めてきた。たとえば、素質的な高い能力から稀にみる業績を成し遂げる (知性や業績の傑出), 人間的に素晴らしい特性から人びとに尊敬される (性格や活動の高揚), 非常に立派で世のためになるような仕事を残す (社会的名声や貢献の拡大) などの事実にもとづいて、「偉大」な個人を生み出す背景を記述してきたのである。ここで問題になるのは、私たちが特定の個人を「偉大な人」または「立派な人」と評価する基準をどこに置いているのかを研究すること、「偉大な人格」が形成される発達のメカニズムを研究することである。歴史的な偉人・天才の研究も同様に考えていかなければならない。

II. 研究の目的

本研究では、中高年者を対象に「偉い人」を特定する水準と自己回想などの結果から、筆者が継続している『偉大性』研究に新たな側面を加えることが目的である。すでに、その研究のいくつかは、心理学的な知見として報告している¹⁻⁷⁾。今日まで『偉大性』を構成する諸要因についての十分な資料は得られていないが、研究方法の吟味に加え、年齢差と性差、自己評価と他者評価などの結果から、『偉大性』の心理学的な意味が徐々に明らかになっている。

III. 研究の方法

1. 調査対象者

新潟県内の農村地域を生活圏としている中高年者の男性と女性で、40歳代41名、50歳代30名、60歳代9名の合計80名（男性61名、女性19名、平均年齢50.9歳）である。

2. 調査材料

(1) 研究目的に沿った『偉大性』に関する質問表を開発した。質問項目の選定については、男女大学生を対象にした予備調査の結果に基づいている。複数の自由記述によって「偉大な人」または「偉い人」を指し示す表現を収集し、得られた記述を類似性の高いものでまとめ、合計で40項目を作成した。表1に、その40項目を示すことにする。

予備調査から得られた40項目について、因子分析などによる一連の研究結果から、本研究では表中に示した30項目を調査材料として採用することにした。なお、その際に調査用紙上の項目番号は、除去項目を詰めたものを使用した。

各項目の回答には、“非常にそう思う”“少しそう思う”“どちらともいえない”“あまりそう

表1 『偉大性』に関する40項目の質問表

* 1. 一生懸命に努力する人	21. ルールや決まりをきちんと守る人
2. 発明や発見をした人	* 22. 立派な成績や記録を残した人
3. 家族のために行動する人	* 23. 社会に役立つことをしている人
* 4. 頭のよい人	24. 賢い人
* 5. 心が広い人	* 25. よく気がつく人
* 6. 自分の考えをきちんと言える人	26. 何事にもくじけない人
* 7. 社会で大きな仕事をした人	* 27. ノーベル賞をもらった人
8. 自分を犠牲にできる人	* 28. 電車でお年寄りに席をゆずる人
9. 豊かな知識がある人	* 29. すばらしい才能を持っている人
* 10. 性格がやさしい人	* 30. がまん強い人
* 11. 何でも最後までやりとおす人	* 31. 何にでもチャレンジする人
* 12. 大統領や総理大臣になった人	* 32. 歴史の教科書にのっている人
* 13. 社会のためにつくしている人	* 33. ボランティア活動をしている人
* 14. 判断力や決断力のすぐれている人	34. 頭の回転が早い人
15. 真面目な性格の人	* 35. 誰からも好かれる人
* 16. 自分の夢を実現しようと頑張る人	* 36. 物事に真剣に取り組んでいる人
* 17. 世界的に有名な人	* 37. 著書をたくさん出版した人
* 18. 困っている人を進んで助ける人	* 38. 世界平和のために貢献している人
* 19. 社会の出来事をよく知っている人	39. すぐれた技術を持っている人
* 20. 責任感の強い人	* 40. 思いやりのある人

(注) 40項目の中で、*印がついた30項目は本研究で使用した項目。

思わない”“全然そう思わない”までの5件法を用いた。

(2) 以下に示したように、自由記述形式に相当する3つの質問を付加した。

①あなたは、今までの自分の生き方に満足していますか。○印をつけてください。

a. 満足している b. 満足していない c. どちらともいえない

②あなたが、今までに一生懸命やってきたことを、1つ書いてください（自由記述）。

③あなたは、自分のどこが「偉かった」と思いますか。1つ書いてください（自由記述）。

3. 手続き

調査用紙(1)の『偉大性』に関する質問項目については、「下に、30通りの『偉い人』が並んでいます。あなたは、その人がどのくらい偉い人だと思いますか。“非常にそう思う”から“全然そう思わない”まで、(例)にならって、その個所(番号数字)に○印をつけてください」という教示を与えた。

調査用紙(2)の①については、適する符号(a・b・c)に○印をつけさせた。また、調査用紙(2)の②③については、自由記述欄に回答してもらった。

なお、調査は匿名による小集団単位で実施した。

IV. 結果と考察

1. 偉大性項目の量的分析

統計処理にあたり、30項目の5段階評価について点数化することにした。すなわち、“非常にそう思う”を5点、“少しそう思う”を4点、“どちらともいえない”を3点、“あまりそう思わない”を2点、“全然そう思わない”を1点に換算して処理した。また、調査対象者の人数が多いとはいえないので、集計は男女混合で行った。

点数化に基づいた30項目の平均得点と標準偏差を算出し、その結果を表2に示した。中高年者からみた偉大性に関する評価は、以下の数項目にまとめられると思われた。

(1) 中高年者が最も高く評価した項目は、No.1「一生懸命に努力する人」(4.61)で、以下、No.9「社会のためにつくしている人」(4.40)、No.13「困っている人を進んで助ける人」(4.34)、No.29「世界平和のために貢献している人」(4.23)の順になっている。No.1については初頭効果を考慮すべきであるが、努力して社会や他者のために活動している姿を連想することができる。したがって、高評価項目を概観すると「社会活動への努力」に関係する内容の多いことが理解される。中高年者にとっての『偉大性』は、生活経験の深さから自分を取り巻く社会への認知像が浮き彫りにされているように感じられる。

(2) 中高年者が最も低く評価した項目は、No.2「頭のよい人」(2.74)で、以下、No.28「著書をたくさん出版した人」(2.83)、No.8「大統領や総理大臣になった人」(2.96)、No.14「社会の出

表2 『偉大性』項目における平均値と標準偏差 (SD)

番号	質問項目	平均値 (SD)
1	一生懸命に努力する人	4.61 (0.58)
2	頭のよい人	2.74 (0.98)
3	心が広い人	4.21 (0.88)
4	自分の考えをきちんと言える人	3.93 (0.84)
5	社会で大きな仕事をした人	3.38 (1.01)
6	性格がやさしい人	3.29 (0.93)
7	何でも最後までやりとおす人	4.15 (0.89)
8	大統領や総理大臣になった人	2.96 (1.21)
9	社会のためにつくしている人	4.40 (0.65)
10	判断力や決断力のすぐれている人	3.76 (0.89)
11	自分の夢を実現しようと頑張る人	4.04 (0.88)
12	世界的に有名な人	3.41 (1.00)
13	困っている人を進んで助ける人	4.34 (0.78)
14	社会の出来事をよく知っている人	3.06 (0.85)
15	責任感の強い人	3.84 (0.79)
16	立派な成績や記録を残した人	3.61 (0.75)
17	社会に役立つことをしている人	4.05 (0.73)
18	よく気がつく人	3.30 (0.66)
19	ノーベル賞をもらった人	3.86 (0.95)
20	電車でお年寄りに席をゆずる人	3.88 (0.79)
21	すばらしい才能を持っている人	3.26 (1.00)
22	がまん強い人	3.16 (0.88)
23	何にでもチャレンジする人	3.24 (0.82)
24	歴史の教科書にのっている人	3.34 (0.91)
25	ボランティア活動をしている人	3.76 (0.78)
26	誰からも好かれる人	3.29 (0.72)
27	物事に真剣に取り組んでいる人	4.00 (0.76)
28	著書をたくさん出版した人	2.83 (0.81)
29	世界平和のために貢献している人	4.23 (0.81)
30	思いやりのある人	3.95 (0.81)

来事をよく知っている人」(3.06)の順になっている。これらの項目群は、素質として知的な側面を備えていることが優秀な成果となって表れる可能性があること、また人生においては知的業績がすべてではないと主張したいことの表出を物語っている。したがって、低評価項目を概観すると「知性と知名度」に関係する内容の多いことが理解される。中高年者が『偉大性』と距離を置いているものは、自分の努力と相いれることの少ない素質に関連した内容である傾向がうかがえる。

2. 偉大性項目の質的分析

調査対象者80名全体の30項目の資料について、主因子法・バリマックス回転による因子分析を行った。その結果、固有値1以上の意味ある5因子が抽出された。各因子の因子負荷量の高い項目を取り上げて解釈を試みた。表3は、それらをまとめたものである。

第1因子は、No.8「大統領や総理大臣になった人」、No.12「世界的に有名な人」、No.24「歴史の教科書にのっている人」、No.19「ノーベル賞をもらった人」、No.28「著書をたくさん出版した人」、No.5「社会で大きな仕事をした人」などの項目で構成され、因子寄与率は45.7%であった。これらの項目は、高い知名度と優秀な業績の達成に関係していると考えられるので、『知名度と高業績』の因子と解釈した。

第2因子は、No.22「がまん強い人」、No.26「誰からも好かれる人」、No.6「性格がやさしい人」、

表3 因子負荷量の高い質問項目と5因子構造

因子	番号	質問項目	因子負荷量
第1因子	8	大統領や総理大臣になった人	0.860
	12	世界的に有名な人	0.816
	24	歴史の教科書にのっている人	0.711
	19	ノーベル賞をもらった人	0.631
	28	著書をたくさん出版した人	0.618
	5	社会で大きな仕事をした人	0.609
第2因子	22	がまん強い人	0.684
	26	誰からも好かれる人	0.601
	6	性格がやさしい人	0.594
	18	よく気がつく人	0.543
	2	頭のよい人	0.479
第3因子	27	物事に真剣に取り組んでいる人	0.565
	15	責任感の強い人	0.560
	11	自分の夢を実現しようと頑張る人	0.553
	17	社会に役立つことをしている人	0.533
	10	判断力や決断力のすぐれている人	0.519
第4因子	25	ボランティア活動をしている人	0.731
	13	困っている人を進んで助ける人	0.662
	20	電車でお年寄りに席をゆずる人	0.521
	9	社会のためにつくしている人	0.488
	30	思いやりのある人	0.451
第5因子	7	何でも最後までやりとおす人	0.653
	3	心が広い人	0.590
	4	自分の考えをきちんと言える人	0.520
	1	一生懸命に努力する人	0.478

No.18「よく気がつく人」、No.2「頭のよい人」などの項目で構成され、因子寄与率は15.2%（累積寄与率60.9%）であった。これらの項目は、人格的な個性に関係していると考えられるので、『良い人柄と個性』の因子と解釈した。

第3因子は、No.27「物事に真剣に取り組んでいる人」、No.15「責任感の強い人」、No.11「自分の夢を実現しようと頑張る人」、No.17「社会に役立つことをしている人」、No.10「判断力や決断力のすぐれている人」などの項目で構成され、因子寄与率は9.4%（累積寄与率70.3%）であった。これらの項目は、自分がたてた目標に向かう姿を示していると考えられるので、『達成行動の信念』の因子と解釈した。

第4因子は、No.25「ボランティア活動をしている人」、No.13「困っている人を進んで助ける人」、No.20「電車でお年寄りに席をゆずる人」、No.9「社会のためにつくしている人」、No.30「思いやりのある人」などの項目で構成され、因子寄与率は7.6%（累積寄与率77.9%）であった。これらの項目は、他者への奉仕的な取り組みをとらえていると考えられるので、『社会活動の貢献』の因子と解釈した。

第5因子は、No.7「何でも最後までやりとおす人」、No.3「心が広い人」、No.4「自分の考えをきちんとと言える人」、No.1「一生懸命に努力する人」などの項目で構成され、因子寄与率は5.7%（累積寄与率83.6%）であった。これらの項目は、自分の意志を貫く姿勢と考えられるので、『達成行動の強さ』の因子と解釈した。

中高年者が確立した『偉大性』の因子構造は、解釈上で5因子になるものと思われた。筆者がこれまでに行った小学生、中学生、大学生を対象とした研究¹⁻⁷⁾は、項目数を40項目として分析していた。したがって、想定された各因子に含まれる項目内容に若干の違いがあり、本研究の因子構造とまったく同一次元で解釈することはできないが、5因子構造であることに違いはなかったため、仮説的ではあるが次のような命名（BASIC）を提案したい。

- (1) 『達成行動の強さ』因子……………Behavior……………第5因子
- (2) 『知名度と高業績』因子……………Achievement……………第1因子
- (3) 『社会活動の貢献』因子……………Social contribution……………第4因子
- (4) 『良い人柄と個性』因子……………Individuality……………第2因子
- (5) 『達成行動の信念』因子……………Confidence……………第3因子

3. 中高年者の満足感と自己評価

中高年者が自己回想に基づいて、今までの人生にどの程度の満足を感じているかをまとめた。その結果、満足度は年代が上昇するにしたがって高まることがわかった。年代を相殺して平均値を算出すると、「満足している」が46.3%、「満足していない」が20.0%、「どちらともいえない」が33.7%であった。調査対象の地域は新潟県内でも農業を中心とした地区で、伝統的に農業や古

来からの慣習を守ることを誇りにしてきたが、現在では農業を基盤としながらも他の職業との兼業にも柔軟に対処している。満足度の持つ意味は不明といわざるを得ないが、それでも40歳を超えてくると自分の生活や価値観に一応の判断がつくものと思われるため、どちらかといえば肯定的（不満足が低いという意味で）にとらえた結果は好ましく感じられるものであった。

つぎに、中高年者が今日までの生活において一生懸命に取り組んできたことへの自己評価を求めたところ、80名の調査対象者の内で44例の記述が認められた。「無記入」や「特にない」という反応は省略してある。ここで、断片的ではあるが何例かを記載しておこう。

- ・ A氏（41歳，女性）……その場の雰囲気や常を丸くしようと努めてきたこと。
- ・ B氏（42歳，女性）……結果は別として子育てをしてきたこと。
- ・ C氏（45歳，男性）……努力をおしまないこと。
- ・ D氏（45歳，男性）……農業問題を前向きに取り組んできたこと。
- ・ E氏（45歳，女性）……自分が親になり子どものために愛情を与えてあげられたこと。
- ・ F氏（46歳，男性）……家族そして自分のために一生懸命仕事をやってきたこと。
- ・ G氏（48歳，男性）……結果にこだわらず、農業を見捨てず続けてきたこと。
- ・ H氏（52歳，男性）……まじめ一筋，正直に生きてきたこと。
- ・ I氏（52歳，女性）……仕事を自分なりに一生懸命やってきたこと。
- ・ J氏（53歳，男性）……初心を忘れずに心をかけてきたこと。
- ・ K氏（56歳，男性）……誠心誠意，仕事をやってきたこと。
- ・ L氏（57歳，男性）……独学で資格を得たこと。
- ・ M氏（59歳，女性）……嫁いで農家の悪い風習を変えること。
- ・ N氏（63歳，女性）……人にやさしくしてきたこと。
- ・ O氏（65歳，男性）……子どもを育てたこと。

そこで、これらの44例の記述を、仮説的な『偉大性』構造の「BASIC」理論に当てはめて考察することを試みた。表4は、その結果をまとめたものである。

(1) 『達成行動の強さ』（B因子）は、C氏のように「努力をおしまない」人生を歩んできたことを自信をもって主張できる態度といえる。全体で18.2%の出現率であった。

表4 努力への自己評価と BASIC 構造との関係

因子名	因子内容	比率(%)	代表例
B	達成行動の強さ	18.2	まじめに生きてきた
A	知名度と高業績	6.8	資格取得ができた
S	社会活動の貢献	13.6	家庭と家族を守ってきた
I	良い人柄と個性	9.1	人にやさしくしてきた
C	達成行動の信念	52.3	仕事を真剣にやってきた

- (2) 『知名度と高業績』(A因子)は、L氏のように「資格」取得を目標にしたり、自分を知的に高めるための態度といえる。全体で6.8%の出現率であった。
- (3) 『社会活動の貢献』(S因子)は、E氏やO氏のように特に「家族」や「周囲」との融和をはかることに生きがいを感じる態度といえる。全体で13.6%の出現率であった。
- (4) 『良い人柄と個性』(I因子)は、N氏のように「やさしい」性格で他者と接触することを経験してきた態度といえる。全体で9.1%の出現率であった。
- (5) 『達成行動の信念』(C因子)は、D氏やI氏のように「仕事を真剣にやってきた」に代表される態度といえる。全体で52.3%と最も高い出現率であった。

4. 中高年者の『偉大性』への自己評価

中高年者が自己回想に基づいて、自分のこれまでの生活のなかで「偉かった」と思う点を取り上げてもらった。かなり恣意的な可能性も想像されたが、反対に文章化することで恣意的なところがむしろ抑えられるのではないかと思われた。前述の「努力」の部分と関係し複合するので、記述全体は多くはなかったが、80名の調査対象者の内で31例の記述があった。「無記入」や「特にない」という反応は省略してある。ここで、断片的ではあるが何例かを記載しておこう。

- ・ P氏 (42歳, 男性) ……妻に対して怒鳴ったりしないこと。
- ・ Q氏 (42歳, 男性) ……物事を責任もってやり通すこと。
- ・ R氏 (48歳, 男性) ……〇〇町にずっと住みつづけてきたこと。
- ・ S氏 (49歳, 男性) ……両親に大きな心配をかけなかったこと。
- ・ T氏 (52歳, 女性) ……何事にも頑張っていること。
- ・ U氏 (52歳, 男性) ……他人のためにできることを自分なりに行ってきたこと。
- ・ V氏 (56歳, 男性) ……1つの仕事(農業)を継続できたこと。
- ・ W氏 (57歳, 男性) ……タバコをやめたこと。
- ・ X氏 (58歳, 女性) ……耐えることができたこと。
- ・ Y氏 (60歳, 男性) ……家を建て、家族を養ってきたこと。
- ・ Z氏 (62歳, 男性) ……まじめな性格であること。

表5 偉大性への自己評価とBASIC構造との関係

因子名	因子内容	比率(%)	代表例
B	達成行動の強さ	22.6	何事も一生懸命にやる
A	知名度と高業績	0	—
S	社会活動の貢献	19.3	ボランティア活動をやる
I	良い人柄と個性	22.6	まじめな性格である
C	達成行動の信念	35.5	責任をもった仕事をする

そこで、これらの31例の記述を、仮説的な『偉大性』構造の「BASIC」理論に当てはめて考察することを試みた。表5は、その結果をまとめたものである。

- (1) 『達成行動の強さ』(B因子)は、Q氏のように「責任をもってやり通す」自分に誇りを感じていることを自信をもって主張できる態度である。全体で22.6%の出現率であった。
- (2) 『知名度と高業績』(A因子)は、1例の記述もなかった。
- (3) 『社会活動の貢献』(S因子)は、U氏のようにボランティア活動的に「他者」へ貢献できることに生きがいを感じる態度である。全体で19.3%の出現率であった。
- (4) 『良い人柄と個性』(I因子)は、Z氏のように「まじめ」な性格で他者とかがわることを経験してきた態度である。全体で22.6%の出現率であった。
- (5) 『達成行動の信念』(C因子)は、T氏のように「何事にも頑張ってきた」に代表される態度である。全体で35.5%と最も高い出現率であった。

以上のような結果から、特に中高年者における人格の『偉大性』を構成する要因の具体例を概観すると、自分の責任で精一杯努力している『努力』の要因、自分の知性を高めるために業績をあげる『業績』の要因、他者のために行動できる『貢献』の要因、他者からも好かれる性格を備える『人柄』の要因、自分を最後まで表現できる『表現』の要因からなるものと思われた。

V. 結 論

本研究は、以下のようにまとめることができる。

- (1) 中高年者は、自分の人生経験と比較するなかで、全体的に『偉大性』の項目に対しては、肯定的(そうだなあという気持ち)にとらえる傾向がある。
- (2) 『偉大性』項目のなかで、「努力する」「つくす」「助ける」などへの肯定率が高い。反対に、「頭脳」「業績」「権力者」などへの肯定率は低い。
- (3) 『偉大性』は、5因子(BASIC)で説明できる可能性がある。
- (4) 加齢にしたがって、人生への満足度も高まる傾向がある。
- (5) 中高年者自身の一生懸命さへの自己評価は、「自分をきちんと表現でき、最後まで頑張る努力の過程」というところにある。
- (6) 中高年者自身の偉さへの自己評価は、「やさしく、まじめで、家族とともに生き、仕事に熱心で、責任ある行動をとる」ところにある。

<参考文献>

- 1) 藤田主一・高嶋正士：「人格の偉大性要因について」, 1996, 日本応用心理学会第63回大会発表論文集, 中京大学。
- 2) 藤田主一・高嶋正士：「人格の偉大性要因についてII」, 1997, 日本応用心理学会第64回大会発表論文集, 駒澤大学。

- 3) 藤田主一・高嶋正士：「人格の偉大性要因についてⅢ」。1998，日本応用心理学会第65回大会発表論文集，龍谷大学。
- 4) 藤田主一・高嶋正士：「人格の偉大性要因についてⅣ」。1999，日本応用心理学会第66回大会発表論文集，東京国際大学。
- 5) 藤田主一・高嶋正士：「人格の偉大性要因についてⅤ」。2000，日本応用心理学会第67回大会発表論文集，神戸親和女子大学。
- 6) 藤田主一：「人格の偉大性に関する心理学的研究——（その1）特に，児童における偉大性要因の分析——」。1999，城西大学女子短期大学部紀要第16巻第1号。
- 7) 藤田主一：「人格の偉大性に関する心理学的研究——（その2）特に，小学生と中学生による偉大性要因の比較——」。2000，城西大学女子短期大学部紀要第17巻第1号。